

# 本文章已註冊DOI數位物件識別碼

- ▶ 《おぼえておきたい日中同形異義語300》における中日対訳の一考察

doi:10.29714/TKJJ.200305.0007

淡江日本論叢, (12), 2003

作者/Author： 關文三

頁數/Page： 111-130

出版日期/Publication Date：2003/05

引用本篇文獻時，請提供DOI資訊，並透過DOI永久網址取得最正確的書目資訊。

To cite this Article, please include the DOI name in your reference data.

請使用本篇文獻DOI永久網址進行連結:

To link to this Article:

<http://dx.doi.org/10.29714/TKJJ.200305.0007>



*DOI Enhanced*

DOI是數位物件識別碼（Digital Object Identifier, DOI）的簡稱，是這篇文章在網路上的唯一識別碼，用於永久連結及引用該篇文章。

若想得知更多DOI使用資訊，

請參考 <http://doi.airiti.com>

For more information,

Please see: <http://doi.airiti.com>

請往下捲動至下一頁，開始閱讀本篇文獻

PLEASE SCROLL DOWN FOR ARTICLE



# 《おぼえておきたい日中同形異義語 300》 における中日対訳の一考察

淡江大学専任講師

関 文三

## 【論文要旨】

光生館により出版された《おぼえておきたい日中同形異義語 300》という本では、日中同形異義語の微妙な差異を多くの例文によって説明している。語彙の的確な使い分けが、翻訳・通訳の角度から見た場合、きわめて重要な問題なので、筆者の担当している日本語翻訳・通訳のクラスでも、この本を自習教材として学習者に読ませている。

しかし残念ながら、この本の例文の中日対訳には、誤訳または誤訳とまで言えなくても議論される余地のあるようなものが多数見られる。学習者に読ませる前に、それらの不適切な対訳を指摘しておく必要がある。そこで、本稿ではページを追ってそのような対訳を取り上げ、一つ一つ分析して改訳してみる。

## キーワード：

同形異義語、意味、中日対訳、誤訳、改訳

## はじめに

日中同形異義語は、周知の通り、中国語を母語とする人が日本語を学習するに当たって（逆に日本人が中国語を学ぶ時も同じだが）細心の注意を払って、その意味や用法の相違点を見分けなければならないものである。同形のこれらの日・中漢字語彙は、特に翻訳・通訳の際、間違われやすい落とし穴として「偽りの友達」とまで呼ばれているのである。

光生館により 1995 年に出版された《おぼえておきたい日中同形異義語 300》という本では、書名の如く 300 語もの日中同形異義語を取り上げ、その違いを (1) 意味・用法にほとんど関係のない同形語、(2) 意味・用法の近似している同形語と (3) 意味の一部分が共通である同形語、以上の 3 つに分かりやすく分類し、多くの例文を提示してその微妙な差異を説明している。日中同形異義語に関するまとまった教材は、この本が現段階で唯一のものと言っても過言ではないだろう。筆者の担当している日本語翻訳・通訳のクラスでも、これを自習教材として学習者に読ませている。

しかし残念ながら、この本の例文の中日対訳には、誤訳または誤訳とまで言えなくても議論される余地のあるようなものが多数見られる。そこで、本稿ではページを追ってそのような対訳を取り上げ、一つ一つ分析して改訳してみたいと思う。

### p. 6 一有機會就企圖替自己翻案。

元訳：機会があれば自分のために先の決定を覆そうとする。

改訳：機会があるとすぐ自分のために先の決定を覆そうとする。

「一…就…」のニュアンスを表すために、「～とすぐ～」という表現を使う。

### p. 8 兩個公司合併了。

元訳：二つの会社が合同した。

改訳：二つの会社が合併した。

「合同」は、「合同で開催する」、「合同の会議をする」などのように、二つ以上のもものが特定の目的のために一時的に一つにまとまる場合に用いられる。一方、「合併」は、多くの場合、合体して一つになることに用いられる。ここの中国語

の「合併」は日本語の「合併」のいわゆる同形同義語で、そのまま日本語に置換えていいと思われる。

p. 10 化粧成女人。

元訳：女に仮装する。

改訳：女装する。

中国語の「化粧」は日本語の「仮装」、「変装」、「扮装」のどれにもあたるが、日本語においてはそれぞれのニュアンスが違う。このような、コンテキストのわからない場合は、「女装する」と訳せば無難だろう。

p. 10 這次回去只有寫檢討了。

元訳：今度帰ったら反省書を書くより仕方がなくなった。

改訳：今度帰ったら反省書を書くより仕方がない。

この中国文の文末の「了」はアスペクト助詞ではなく語気助詞であり、文全体を確認してひきしめる働きがある。あるいは意識で「今度帰ったら反省書を書かなければならない」にしてもいいだろう。

P. 13 給您添麻煩了，請把這個東西給捎回去。

元訳：ご迷惑でしょうが、これをお届け願います。

改訳：ご迷惑でしょうが、これをついでにお届け願えませんか。

中国語の「捎」は「ついでに持っていく（くる）」または「言付ける」という意味である。また、「ご迷惑でしょうが」は丁寧な言い方だから、指示に聞こえる「願います」よりも「願えませんか」を使ったほうが釣合いが取れる。

p. 14 他說的理由很勉強。

元訳：彼のいいわけは無理だ。

改訳：彼のいいわけには無理がある。

「～無理だ」は行い難いという意味なので、「いいわけは行いにくい」とは通じないだろう。

p. 18 求人不如求自己。

元訳：人に頼むよりは自分に頼むほうがましである。

改訳：人に頼むよりは自分でやるほうがましである。

元訳は明らかに直訳したものだが、「自分に頼む」という言葉は日本語としては違和感を覚える。

p. 27 違反比賽規則。

元訳：競技の約束に違反する。

改訳：競技の規則に違反する。

競技においては、「ルール」、「規定」の意味で「規則」という言葉が使われる。

p. 32 你的画内行都要退避三舍。

元訳：君の絵は本職はだした。

改訳：君の絵はくろうとはだした。

「本職はだし」よりも「くろうとはだし」のほうがよく耳にするようだし、中国文に合っている。

p. 33 剛出世的孩子。

元訳：生まれ出たばかりの子供。

改訳：生まれたばかりの子供。

「生まれたばかり」で十分だろう。「生まれたての赤ん坊」ともいう。

p. 36 民族精神的體現。

元訳：民族精神の発見。

改訳：民族精神の具現。

「発見」はそれまで人に知られていなかった物事を初めて見つけ出す意なので、「民族精神を初めて見つけ出す」とはおかしいし、中国文に合っていない。中国語の「體現」は「具体的に表している」という意味なので、日本語の「具現」または同形語の「体現」に当たる。

p. 43 要是努力學習，將會取得優異成果。

元訳：一所懸命に勉強すれば、素晴らしい成果に結実する。

改訳：一所懸命に勉強すれば、素晴らしい成果に結びつく。

「取得優異成果」は「素晴らしい成果があがる」或いは「りっぱに結実する」という意味である。しかし、「努力が結実する」とはいうが、「成果」と「結実」を一緒にすると意味上重複してしまうきらいがあり、硬い表現になる。

p. 44 李大夫給我看病。

元訳：李先生は私に病気を診てくれる。

改訳：李先生は私の病気を診てくれる。

「患者の脈を診る」というように、別に「私」を間接目的語にする必要はない。

p. 50 勞動大眾。

元訳：勤労大衆

改訳：勤労者

「勤労者」は一つの熟語だが、「勤労大衆」は日本では使われていない。

p. 52 繁殖昆蟲。

元訳：昆虫を生育する。

改訳：昆虫を繁殖させる。

「生育」には「増やす」という意味はない。

p. 52 在地球上生長的動物非常多。

元訳：地球上に生育する動物は非常に多い。

改訳：地球上に生息する動物は非常に多い。

動物が「棲んでいる」という意味で「生息」または「棲息」に訳す。

p. 52 火星上不能生長植物。

元訳：火星には植物は生育しない。

改訳：火星では植物は生育しない。

もし中国文は「火星上沒有生長植物」だったら、格助詞は存在する場所を表す「に」で正しいが、「不能生長植物」の場合は、存在ではなく動作の行われる場所を表す格助詞の「で」を使う。

p. 53 郵差每天下午來送信。

元訳：郵便配達人は毎日午後、郵便を配達してくる。

改訳：郵便配達人は毎日午後、郵便を配達しにくる。

「毎日午後、郵便を配達してくる」というと、話者がその配達という行為に対し、あまり望んでいないような印象を受ける。

p. 54 光線不好，看書容易損害視力。

元訳：光線がよくないと、本を読んで視力を損ないやすい。

改訳：光が足りないまま本を読むと、視力を損ないやすい。

この中国文の「光線」は、「太陽の光（日光）」または「電灯の光」を指しているのので「光」に訳せばよい。また、「光線不好」は「光が足りなくて暗い」という意味だが、それを「よくない」と直訳すると「光が有害である」と誤解されるかもしれない。それから、中国文「光線不好，看書容易損害視力」とはなっているが、「在光線不好的情況下看書，容易損害視力」という意味を読み取って訳さないと変な訳文になってしまう。

p. 54 每年由颱風帶來的損害很大。

元訳：毎年合風による損害が大きい。

改訳：毎年台風による損害が大きい。

明らかに単にミスプリントに過ぎないが、一応指摘しておく。

p. 56 到國外赴任。

元訳：外地に赴任する。

改訳：外国に赴任する。

日本語の「外地」は「国外の地」という意のほか、日本の旧属領・植民地のことも言う。翻訳の際、混同をきたさないために「外国」や「海外」に訳したほ

うがはっきりする。

p. 56 在國外工作。

元訳：外地勤務。

改訳：海外勤務。

上と同じ。

p. 57 家裡的事不要向外人說。

元訳：家の事はその人に話さないでください。

改訳：家の事はよその人に話さないでください。

中国語の「外人」は「赤の他人」や「局外者」のことである。これに対して、「よそよそしい」という言葉があるように、日本語の「よそ」は「自分の・家（属する組織・団体）以外の所」または「ほか」を意味する。

p. 57 外籍教師。

元訳：外人教師。

改訳：外国人教師。

「外人」は「外国人」の圧縮表現だが、日本語がある程度わかる西洋人に差別用語として嫌われるようである。

p. 63 使用備品修理。

元訳：予備を使って修理する。

改訳：予備の部品を使って修理する。

「予備の部品」のことを「予備」という人もいるだろうが、やはり「予備の部品」のほうがはっきりすると思われる。

p. 65 温泉適於病後的休養。

元訳：温泉は病後の保養に適している。

改訳：温泉は病後の養生に適している。

「保養」は健康を維持するために休むことであるのに対して、「養生」は病

気を治したり、健康を回復したりするために体を休めるという意味である。

p. 66 這家公司有 15 位經理。

元訳：この会社は 15 人の部長がいる。

改訳：この会社には 15 人の部長がいる。

「いる」と合わせて、格助詞「に」を付け加える。

p. 66 新家庭家俱還不齊全。

元訳：新所帯で道具がまだ揃っていない。

改訳：新所帯で家具がまだ揃っていない。

中国語の「家俱」と日本語の「家具」とは同じで、家に備えて生活に用いる机、椅子、たんすなどやや大型の道具の総称を言っている。「所帯道具」なら、中国語では「家庭生活用具」という。

p. 72 今天澆花用了很多水。

元訳：今日は花にかけるのにたくさんの水を使いました。

改訳：今日は花に水をたくさんやりました。

中国語の「澆花」という言葉には、「水」とう文字が表れていないため、単語の単なる置換えで「花にかける」というような表現となってしまうのではないか。つまり中国語の干渉による訳文と言えるだろう。せめて直訳で「今日は花にかける水をたくさん使いました。」というくらいにしたい。

p. 77 那個診所只有一位醫生。

元訳：その医院は医者は一人しかいません。

改訳：その診察所は医者が一人しかいません。

中国語の「診所」に当たる日本語は「診察所」である。また、中国文の語順は「那個診所醫生只有一位」となっていれば、元訳でいいと思うが、「医者」が主題でもない場合は、「は」ではなく「が」にすべきである。

p. 83 恢復原狀。

元訳：白紙に返す。

改訳：白紙に戻す。

前者よりも後者が慣用される。

p. 85 只有善於表情的演員才能演好這場戲。

元訳：表情の巧みな俳優だけがこの芝居をうまく演じられる。

改訳：表情の豊かな俳優だけがこの芝居をうまく演じられる。

「巧みな演技」とは言うが「表情が巧みだ」はどうだろうか。「表情による演技が巧みな俳優」の意味合いから、「表情の豊かな俳優」に訳してみた。

p. 96 電影導演。

元訳：映画の監督。

改訳：映画監督。

「何の監督」という問いに対する答えのような場合でもなければ、「の」を用いないのが一般的である。

p. 99 罷工勝利後，全體職工復工。

元訳：ストライキに勝って、全員就業した。

改訳：ストライキに勝って、全員職場に戻った。

中国語の「復工」は「職場に復帰する」のことである。

p. 100 下了決心就實行吧，那樣消極的話，和不下決心一樣。

元訳：決心したことは実行しなさい、そんなに消極的では決心しないのと同じです。

改訳：決心したことは実行しなさい、そんなに消極的では決心していないのと同じです。

実行しなければ「決心がつかないでいる状態にある」と同じだという意味から、決心の意志ではなくその状態を表すようにしたいわけである。元訳は中国文には合っていると言わざるをえないが、そもそも原文に問題がある。このような文脈では普通「不下決心」ではなく「沒下决心」で続くと思われる。

p. 104 一般沒有這種可能性。

元訳：普通こういう可能性がない。

改訳：普通こういう可能性はない。

「こういう」という指示語がついた場合は、ある特定のものを指すので、限定の意味を強めるために「は」を使ったほうが自然である。

p. 109 四人因受傷被醫院收容。

元訳：4人は負傷して病院に收容された。

改訳：4人が負傷して病院に收容された。

「4人」は前にすでに言及された人々で話題として取り上げられている場合ならば、その格助詞は「は」でよいが、そうでなければ、主語を表す「が」を用いる。

p. 109 大學的招生人數。

元訳：大学の收容定員。

改訳：大学の募集人數。

中国語の「招生」は「招考新生」の略で、つまり「新入生を募集すること」である。

p. 110 我談一談得出這個結論的過程。

元訳：そういう結論に達した順序を話してみよう。

改訳：そういう結論に達したプロセスを話してみよう。

中国文の「得出」は「導き出す」の意味で、「得出結論的過程」は「結論を導き出したプロセス」ということである。つまり、コンテキストからこの中国語の「過程」を「論理の展開の仕方」と解釈するわけである。「順序」はただ「後先の関係」を言い、「論理の展開の仕方」という意味は含んでいない。

p. 110 蓋房子也需要種種的材料。

元訳：家を建てるのにもいろいろな素材が必要だ。

改訳：家を建てるのにもいろいろな材料が必要だ。

日本語の「素材」は造形美術の材料、または芸術作品の題材をいうほか、「原木」という意味もあるが、中国語の「材料」はそういう意味で使われていない。

p. 111 他通常晚上在家。

元訳：彼は通例晩は自宅にいる。

改訳：彼は通常夜は自宅にいる。

「通例」は副詞的にも用いるが、もともと世間一般のならわしやしきたりからきまりのようになって行われていることをいう言葉で、個人のことに用いては不適切である。

p. 116 只有一家沒有訂報。

元訳：一つの家庭だけ新聞を取っていない。

改訳：一軒だけ新聞を取っていない。

中国語の「一家」は必ずしも「一つの家庭」ということではなく、商店や企業のこともいう。

p. 118 這所大學有九十名助教。

元訳：この大学では90人の助手がいる。

改訳：この大学には90人の助手がいる。

特に「この大学」という場所を強調する場合でもなければ、普通、格助詞「に」を使う。

p. 119 那兩個人關係曖昧。

元訳：二人は不正な関係をもっている。

改訳：二人はいかがわしい関係にある。

「不正な関係」と訳すと正しくない行為をしていると断定されてしまうので、中国語の「曖昧」にはそわない。

p. 119 聽說廠長和女工程師關係曖昧。

元訳：工場長と女性技師とは不正な交際をしているそうです。

改訳：工場長と女性技師とは不純な交際をしているそうです。

男女関係の場合では、「曖昧」は「怪しくて純粋でない」という意味に使われる。

p. 128 多少不等・長短不齊。

元訳：数は同じく無く、長短もそろっていない。

改訳：数は違っているし、長さもそろっていない。

「多少」は「数」と訳し、「長短」は「長さ」に訳せばよい。また、「違っている」のほかに、「同じでない」、「等しくない」でもよいだろう。

p. 129 發揮作用。

元訳：役割を發揮する。

改訳：1. 役割を果たす。

2. 効力を發揮する。

中国語の「作用」は「役割・機能」、「効果・効き目」、「影響」など広い意味に用いられるが、その意味によって合わせて使う日本語の動詞も違ってくる。

p. 132 對青少年的成長極為關心。

元訳：青少年の成長に大きな配慮をよせる。

改訳：青少年の成長に大きな関心をよせる。

中国語の「關心」は「関心を持つ」または「気にかける」という程度の意味で、「気を配る」や「気をつかう」までのニュアンスは含んでいない。

p. 132 廣大青少年。

元訳：広範な青少年。

改訳：大勢の青少年。

「広範」は「広範な地域」、「広範な知識」というように範囲が大きいことをいう言葉で、人数を数えるときには使わない。

p. 135 那是昨天煮的馬鈴薯，回生了，不要吃了。

元訳：それは昨日煮たじゃがいもなので、生の味に戻ってしまったから、食べ

てはならない。

改訳：それは昨日煮たじゃがいもなので、時間が経ったから、食べないほうがいい。

中国語の「回生」は一度蒸した食べ物がしばらくたって「生煮え」のような状態に戻ることをいう。しかし、「元の味」と訳しては分かりづらいのではないかと思う。また、ここの「不要吃了」は別に禁止の意味ではなく忠告の程度の言い方であろう。

p. 136 演技不簡單・

元訳：演技が平凡ではない。

改訳：演技がうまい。

否定形の表現を肯定形にしたり、またはその反対の処理をするなどして訳せば、意味がすっきりする上に、表現も的確になることがある。

p. 137 解決了敵人一個團・

元訳：敵の一個師団を消滅した。

改訳：敵の師団を一つ殲滅した。

或いは「片づけた」、「やっつけた」でもいいだろう。「消滅」と訳すなら、使役表現すべきである。

p. 155 往公司給朋友打電話，會影響他的工作・

元訳：友達に会社へ電話をかけると、その人の邪魔になる。

改訳：会社にいる友達に電話をかけると、その人の邪魔になる。

中国語の「往」は日本語の格助詞「へ」に、「給」は「に」に当たるが、日本語の構文では、「使役動詞」または「移動動詞」でない限り一つの動作が、ある方向へ向けて、それと同時にある相手に対して行われることはできないとされる。

p. 159 這個戲最近就要上演・

元訳：この芝居は近いうちに上演することになっている。

改訳：この芝居は近いうちに上演されることになっている。

主題の「この芝居」を主語として話している場合、中国語では受身を表す助詞の「被」が普通省略されるが、日本語では受身表現にする。

p. 163 爲中日文化交流事業上所取得的成就而乾杯。

元訳：日中文化交流事業で勝ち取った成功のために乾杯。

改訳：日中文化交流事業で勝ち取った成功に乾杯。

乾杯の際、「～のために、乾杯」ではちょっとうっとうしい気がする。決り文句としては、「～を祝して、乾杯！」または「～に乾杯！」という。

p. 170 今天上了四節課。

元訳：今日4時間授業があった。

改訳：今日は4時間授業があった。

叙述の内容が「今日」に限られることを表す意味で「は」が必要である。せめて「今日」の後ろに格助詞「は」のかわりに「、」を入れたい。

p. 175 掃除文盲。

元訳：文盲を一掃する。

改訳：非識字者をなくす。

「文盲」は日本では差別用語とされて現在ほとんど使われていない。

p. 177 刷新紀錄。

元訳：記録を刷新する。

改訳：記録を更新する。

中国語では、「記録を更新する」ことを「刷新紀錄」というが、日本語の「刷新」はそれまでの悪い点を取り除いて全く新しくすることで、特に組織や機構についていうことが多い。今まであった記録、契約、免許証などのものを、新しくすることを日本語でいう場合は、「更新する」という言葉を用いるのが一般的である。

p. 177 專題。

元訳：特定の題。

改訳：特定のテーマ。

専門的で特別な講演や討論などのテーマのことであるが、「～の題」の言い方はやはり違和感を覚えさせる。

p. 178 書名・ 電影名・

元訳：本の題。 映画の題。

改訳：本のタイトル。 映画のタイトル。

書名という場合は「本の題名」またはそのまま「書名」にしてもよい。映画の場合もやはり「映画の題名」といえる。

p. 178 完全不明白・

元訳：完全にわからない。

改訳：全然わからない。

或いは「全くわからない」に訳してもよい。「完全にわからない」は、自分のしくんだトリックなどが相手に見破られないというような場合に用いる言い方である。

p. 182 規定學生服裝・

元訳：学生の服装を一定する。

改訳：学生の服装を規定する。

「規定する」はよりどころとしての条文や形に定めることであるのに対し、「一定する」は一つの様式に決めることに重点が置かれる。

p. 182 他的思想發生了一定的變化・

元訳：彼の思想は相当の変化が起きている。

改訳：彼の思想には相当な変化が起きている。

「起きた変化」が存在する場所を表すため、「に」を付け加える。

p. 185 戰爭發生的緣起・

元訳：戦争発生の縁起。

改訳：戦争発生の原因。

中国語の「縁起」と日本語の「縁起」は両方とも「物事の起こり」という意味があるが、日本語の「縁起」は主に社寺の起こり、または吉凶の前兆の意味に使われる。

p. 188 我在大學專門學漢語。

元訳：私は大学で専門に中国語を勉強している。

改訳：私は大学で中国語を専門に勉強している。

副詞がその修飾する用言の直前に置かれるのが一般的である。

ここからの対訳は間違いではないが、原文の中国語は現代中国語である「白話文」であるのに対し、対訳の日本語は今日あまり使われていない、古めかしい言葉を用いる、若しくは古い意味に使う。

p. 23 天真的小孩。

元訳：無心な子供たち。

改訳：無邪気な子供たち。

「無心」は、もともと仏教語で「一切の妄念から解放された心」という意味から派生して、「心に邪念のないこと・さま」の意味に用いられていた。

p. 79 這個工廠的工人工作很努力。

元訳：この工場の職工はよく働く。

改訳：この工場の作業員はよく働く。

「職工」は「工場労働者」の旧称である。

p. 98 結局很好。

元訳：結局がとてもいい。

改訳：結末がとてもいい。

「結局」は「囲碁で、一局を打ち終えること」の意から「事の終わり」という

派正義になった。「結局はとてもいい」とも言うが、この「結局」は副詞として用いられ、意味が違う。

p. 98 事件的結局・

元訳：事件の結局。

改訳：事件の結末。

上と同じ。

p. 101 屋子裡亂七八糟・沒有立腳的地方・

元訳：部屋の中は立場のないほど散らかっている。

改訳：部屋の中は足の踏み場もないほど散らかっている。

「立場」は「立つ場所」という意味だったが、現在では殆どその派正義でしか使われていない。

p. 101 處理難題・

元訳：難題を料理する。

改訳：難題を処理する。

「料理」は「物事をはかりおさめる」という意味で使われていたが、現在ではふざける言い方として使われることもあるが、語感が中国文に合っていない。

p. 111 人參是中國東北的土產・

元訳：朝鮮人參は中国の東北の土産である。

改訳：朝鮮人參は中国の東北の特産である。

「土産（どさん）」は「その土地の産物」という意味で使われていた。

p. 120 因爲他地位卑賤・周圍的人都看不起他・

元訳：彼は地位が卑賤なので、まわりの人はみな彼をばかにする。

改訳：彼は地位が卑しいので、まわりの人はみな彼をばかにする。

「卑賤」は現在あまり使われていない。

p. 163 成就革命大業。

元訳：革命の大業を成就した。

改訳：革命の大業を成し遂げた。

「成就」は「大願成就」というように、「かなう」、「できあがる」という意味だった。

p. 169 不要接近那幫人。

元訳：あんな連中には接近するな。

改訳：あんな連中には接触するな。

「接近」は「親しく付き合うこと」、「親しくなること」、「交際すること」という意味にも使われていた。

p. 169 容易接近。

元訳：接近しやすい。

改訳：近づきやすい。

上と同じ。

p. 170 力圖和中國建立友好關係。

元訳：中国に対し友好的接近を図る。

改訳：中国に対し友好的な関係を図る。

p. 170 使老師和學生的關係更加密切。

元訳：教師と生徒をもっと接近させる。

改訳：教師と生徒の関係をもっと密接にする。

p. 171 防毒面具。

元訳：防毒面

改訳：防毒マスク

p. 183 本來身體就不結實。

元訳：一体、丈夫な人ではなかった。

改訳：もともと体が丈夫な人ではなかった。

「一体」は副詞で「元来」の意味にも使われていた。

### おわりに

以上、筆者なりに分析してみたが、その多くは対訳における語彙問題であると思われる。語彙的的確な使い分けが、翻訳・通訳の角度から見た場合、きわめて重要な問題だけに、《おぼえておきたい日中同形異義語 300》を学習者に読ませる前に、それらの不適切な対訳を指摘しておく必要がある。また、出版社も重版する場合、これらの対訳を改めて検討し、修正を施してくださるとありがたい。

## 参考文献

- 上野恵司・魯曉琨 1995『おぼえておきたい日中同形異義語 300』光生館
- 徐烈炯 1995『語義学』語文出版社
- 森田良行 1991『語彙とその意味』アルク
- 池上嘉彦 1983『意味論：意味構造の分析と記述』大修館書店
- 1998『広辞苑 第五版』岩波書店
- 1998『大辞泉 増補・新装版』小学館
- 1995『大辞林 第二版』三省堂
- 1995『日本語大辞典 第二版』講談社
- 1993『角川大辞源 第三版』角川書店
- 1989『古語大辞典』小学館
- 1981『類語新辞典』角川書店
- 1994『辞海 上. 中. 下 三版』台湾中華書局
- 1986『辞彙』文化圖書公司